

1. インターバンク市場

3/14~18のインターバンク市場は、当座預金残高が概ね260兆円台前半で推移する中、積み期の境目を挟む週となったものの、概して落ち着いた地合いで推移した。無担保コールO/N物は、14、15日は▲0.01~0.001%の出合いで推移した。16日以降は積み序盤に当たったため、慎重姿勢が目立つようになり、無担保コール物の市場残高は15日と比較して1兆5,000億円程度減少した。出合いは概ね▲0.01~0%で推移した。無担保コールO/N加重平均レートは概ね0%を若干下回る程度であったが、16日は一部業態が高めのレートでストレスチェックを行ったため、加重平均レートは0.002%と僅かにプラスとなった。ターム物に関しては、ショートターム物で▲0.01~0%の出合いが数件見られる程度であった。固定金利方式の共通担保資金供給オペは、16日に3M・15,000億円、17日に3M・15,000億円、2W・8,000億円がオファーされた。結果としては、16日オファー分は、落札額6,550億円(期落ち額1兆3,150億円)、17日オファー分では3M物は落札額220億円、2W物は落札額4,600億円(期落ち額は1兆400億円と780億円の2本)と全て札割れとなり、共通担保資金供給オペの残高は大きく低下した。

14、15日に開催された日銀金融政策決定会合では、金融政策については現状維持が決定された。また、MRFを受託する金融機関のマクロ加算残高に、受託残高に相当する額を追加することや、貸出支援基金および被災地金融機関支援オペの残高を増加させた金融機関については、増加額の2倍の金額をマクロ加算残高に追加することなどが決定された。

3/22~25の資金需給は、22日に国債の大量償還・利払いが予定されており、大幅な資金余剰となることが予想される。主要なイベントとしては、25日の2月の全国CPI、米国10-12月期四半期GDP確報値などが予定されている。

2. オープン市場

3/14~18の短国市場は、期末にかけての担保需要もあってか、週を通して全般的に堅調な推移となった。短国の入札は16日に1Y物、17日に3M物の入札が実施された。1Y物は、WI取引で▲0.16%の出合いが見られる中、オペ見合いでの積極的な応札が多かったためか、按分落札利回▲0.1531%(按分比率13.2946%)、平均落札利回▲0.1641%と過去最低利回を更新する結果となった。セカンダリーでは▲0.2%と買い進まれた。3M物は、WI取引で▲0.105%の出合いがまとまってみられる中、按分落札利回は▲0.0973%(按分比率79.0420%)、平均落札利回は▲0.1025%と概ね事前予想通りの結果となった。セカンダリーでは▲0.1025~▲0.1%と堅調に推移した。18日は国債買現先オペがおよそ5年ぶりにオファーされたものの、22-23日のO/N物だったこともあり、特段マーケットへの影響は見られていない。また、短国買入オペが1兆7,500億円でオファーされた。オファー額が増加した事もあり、平均利回較差+0.007%、按分利回較差▲0.004%(按分比率89.7%)と落ち着いた結果になった。

3/14~18のCP市場は、3月末に向けて有利子負債を削減する動きが見られたことで、発行額は積みあがらなかった。石油・ノンバンクなどの業態からまとまった発行案件が実施されたものの、週間発行総額は5,500億円程度にとどまり、償還総額の7,500億円程度を下回った。発行レートは足元のレボ金利の低さも影響し、期越物は0%の出合いも多く見られ、期内物も0%近辺での出合いとなった。17日にはCP等買入オペが前回に続き5,000億円で実施された。応札額が6,088億円と少なかったため、平均落札利回▲0.194%・全取落札利回▲0.385%と、共に過去最低利回を更新する結果となった。

3/22~25の短国市場は、24日に3M物の入札が予定されている。期末に向け、引き続き堅調な結果が予想される。また、国債買現先オペ等が今後どのようなペースでオファーされるのかも注目される。CP市場は、22日から証券保管振替機構がマイナス金利でのCP発行に暫定的に対応を開始する予定となっており、発行レートが注目される。

3. 資金需給および国債等

銀行券は週間で5,300億円程度の発行超見通し。財政等要因は、22日の国債大量償還・利払い、25日の地方公共団体への貸付等があり、6兆2,100億円程度の払い超見通し。以上により、今週の資金需給(日銀調節を除く)は週間で5兆6,800億円程度の資金余剰を予想する。国債・借入金(日銀償還は除く)の動きは次の通り。＜22日＞TB3M;償還47,500億円・発行45,000億円/TB1Y;償還9,700億円・発行25,000億円/5Y;償還35,500億円・発行25,000億円/10Y;償還67,500億円・発行24,000億円/20Y;償還5,300億円・発行12,000億円/30Y;発行8,000億円/変動15Y償還3,200億円/エネルギー対策借入;期日3,500億円・新規2,500億円＜25日＞流動性供給;発行5,000億円

2016年	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ	期日	新規実行	オペ合計	実質過不足
3/21 (月)			0				0	0
3/22 (火)	▲ 300	43,100	42,800	全店共通 (固) 国債買現先 CP買入 社債買入 ETF買入 国債補完供給	▲ 11,200 ▲ 800 ▲ 300 2,300	4,800 3,900 200	▲ 1,100	41,700
3/23 (水)	▲ 1,000	4,000	3,000	CP買入 国債買現先 国債買入 短国買入	 ▲ 3,900 	5,000 12,600 17,500	31,200	34,200
3/24 (木)	▲ 2,000	3,000	1,000				0	1,000
3/25 (金)	▲ 2,000	12,000	10,000	全店共通 (固)	▲ 8,200		▲ 8,200	1,800
週 間 合 計	▲ 5,300	62,100	56,800		▲ 22,100	44,000	21,900	78,700

(注) 上表の3/22は日銀予想、3/23以降は当社予想。

	国内主要経済指標	国債等入札予定	海外主要経済指標
3/21 (月)	振替休日		2月の米中古住宅販売
3/22 (火)			2月の英消費者物価指数
3/23 (水)	月例経済報告 (内閣府) 兵庫県金融経済懇談会にて布野審議委員講演	流動性供給 5,000億円 3/25発行	2月の米新築一戸建て販売件数
3/24 (木)	決定会合における主な意見 (3月14, 15日分 8:50)	TB3M 45,000億円 3/28発行	2月の米耐久財新規受注
3/25 (金)	3月都区部・2月全国消費者物価指数 (CPI 総務省 8:30) 2月の企業向けサービス価格指数 (日銀 8:50) 10-12月期の資金循環統計速報 (日銀 8:50) 1月の景気動向指数改訂状況 (内閣府 14:00)	2Y 23,000億円 4/15発行	10-12月期の米GDP確報値 欧州・英国祝日 (Good Friday)

本資料の内容は、十分信頼し得る情報・データ等に基づいて作成しておりますが、内容の正確性については弊社がこれを保証するものではありません。掲載内容のタイトル・日時・地域等につきましては、お取引先様各位にて別途ご確認戴きますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。

金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関 関東財務局長 (登金) 第526号 日本証券業協会加入